

竹 中 大 工 道 具 館

NEWS

未 来 へ つ な ぐ 、 匠 の 技 と 心

Takenaka Carpentry Tools Museum News Letter

Vol. 31

2014 | Spring-Summer



新たに建設された竹中大工道具館：緑に囲まれた庭園とエントランス

CONTENTS

INFORMATION 移転・新館開館について

COLUMN 数寄屋師の創意— 笛吹嘉一郎と旧竹中邸茶室

EXHIBITION 巡回展
日中韓 棟梁の技と心

EVENT 「技と心」講演会

NEWS 木の建築賞

REPORT ハーバード展

SEMINAR 「技と心」セミナーのご案内

生まれ変わった道具館でお待ちしています

いよいよ10月4日、竹中大工道具館が新たなスタートを切ります。「人と自然をつなぐ、伝統と革新をつなぐ」をテーマに、新神戸駅前の緑豊かな地に建設された新館はすでに完成。現在、新しくなる常設展の工事が進められています。これまでの道具館のイメージを一新する工夫に満ちた展示品が次々と運び込まれ、われわれスタッフも期待に胸はずませています。またミュージアムショップで販売するグッズや木工室でのイベントの準備も急ピッチで進めています。新たな道具との出会いが、きっとあなたを待っているはず。ご期待ください！



外観

人と自然をつなぐ。

新しい竹中大工道具館が建つのは、神戸・六甲山の麓。新幹線新神戸駅の間近にありながらも、緑豊かなロケーションです。建物は地上1階、地下2階として存在感を抑え、敷地にあった茶室は残し、樹木の伐採も最低限に留めました。そこは都市の中にながら、まるで森に包まれたオアシスのような場所です。

地上階の透明感あふれるガラス張りのロビーには、地元の木工作家たちがつくった木のチェアをご用意。海側では新しくつくられた^{かれきんすい}枯山水の日本庭園を、山側では六甲山の雄大な山並みを楽しみながらくつろぐことができます。地下の空間にも自然の光と四季のうつろいを取り込むため、大きな中庭を設けました。

ここは道具を楽しむための博物館ですが、日本人が昔から大事にしてきたものづくりの心を受け継いでいくための場でもありたいと考えています。シンボリックで自己主張の強い建築ではなく、人と自然をやわらかにつなぐ存在としての「和」の建築を楽しんで下さい。



上：玄関門 下：ロビーより中庭を望む



1Fロビー

伝統と革新をつなぐ。

日本が世界に誇る職人の技をリアルに感じてもらいたい。建物は一見、モダンに見えますが、いたるところに伝統の職人技を散りばめました。つまり博物館そのものが「匠の技の数々を肌で感じていただける場」となっています。

例えば、建物の四周を覆う壁。京都の聚楽土^{じゅらく}を混ぜた漆喰^{しっくい}で仕上げています。さらに内側は桂離宮でも用いられているバラリ仕上げ。中庭まわりの屋内空間は、風化した版築壁^{はんちく}をイメージした土壁削出しとしました。雨風を防ぐ屋根は淡路のいぶし瓦。美しいむくり屋根で来館者を迎えます。

地上階のロビーは伝統の職人技と現代の建築技術が融合した大空間です。建物の骨格をつくるのは存在感を消した鉄骨材。構造技術を駆使して内部に柱のない大空間を実現しています。一方、天井は天然の無垢材を使った伝統の舟底天井。木組みの技を用いてスッキリとして温かみのある空間が作り出されました。

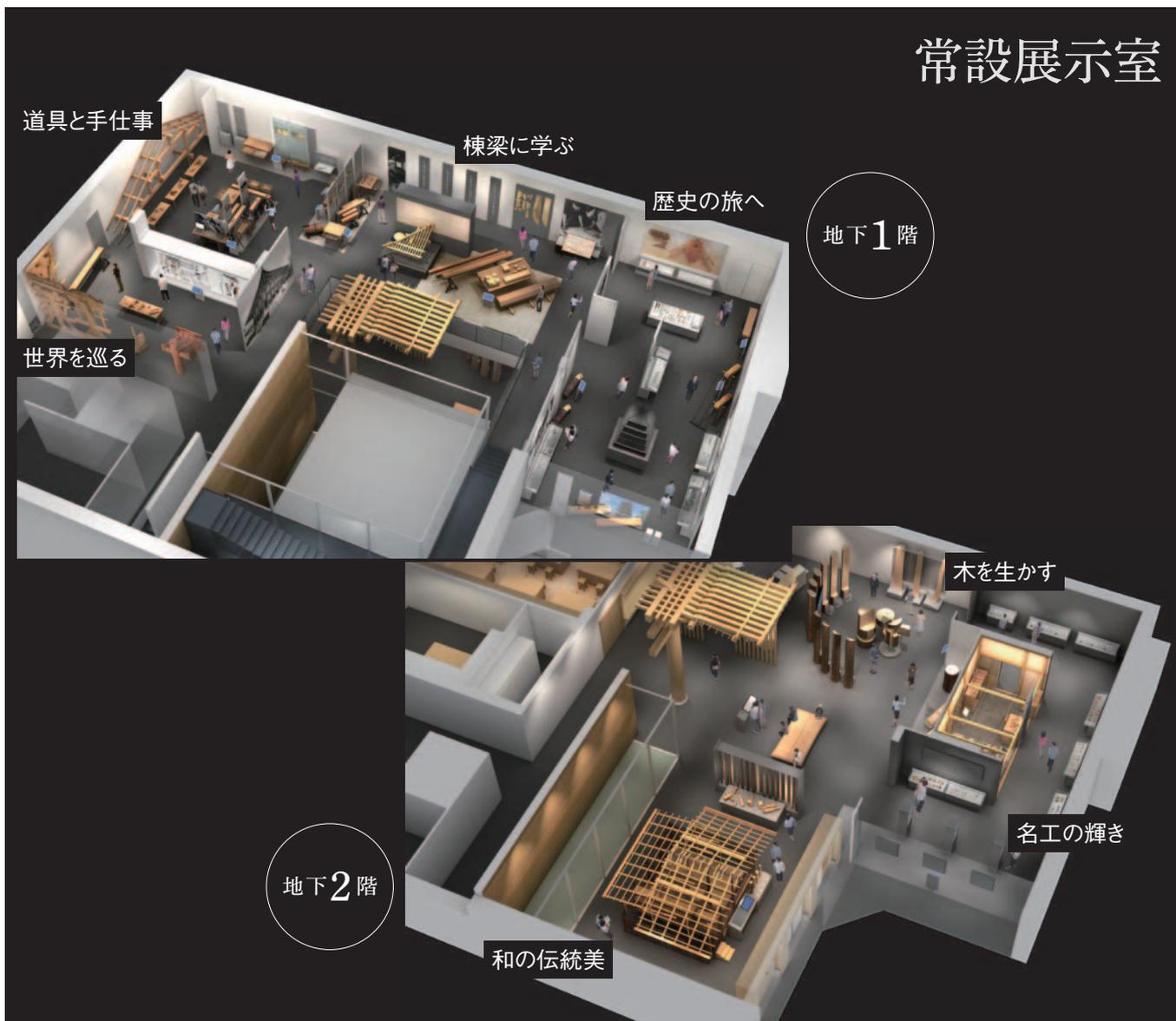
そのほかにも名栗^{なぐり}仕上げの自動ドアや、鍛冶が鍛造で仕上げた案内サインなど細かなところに職人技で工夫を凝らしています。

どの場所が伝統の技で、どの場所が現代の技なのかをチェックしてまわるのも、新しい竹中大工道具館の楽しみ方の一つです。



上:自動ドア(名栗仕上げ) 下:地下1階吹き抜け

常設展示室



※CGIはイメージです。実際の展示とは異なる場合があります。

五感にひびく展示。

展示室では、これまで収集した約30,500点の資料の中から選りすぐった約1,000点を紹介しています。鋸、鑿、鉋、墨掛道具など、普段見かけることが少なくなった数々の専門道具とそのバリエーションは来館者を圧倒するでしょう。

大工道具は、長年職人たちの手仕事の技と知恵とともにかたちづくられ、そこには日本人ならではのモノづくりのこだわりと、心遣いが閉じ込められています。そんな心と技と知恵をよりわかりやすく、深く感じていただけるようただモノを展示するだけでなく、各種模型と組み合わせて仕組みや使い方が「直感的」に理解できるようにしています。さらに情報端末「映像ナビ」でより詳しく見る

こともできます。

実際に触って学ぶハンズオン展示も大幅に増加。好評な「木の香りボックス」「木組みパズル」のほかに、「砥石を顕微鏡でのぞいてみよう」「木の重さを比べてみよう」などファミリーや女性の方々でも楽しく学んでいただけるよう、新たな工夫を追加しました。また、プロの職人たちもうなる「名工の輝き」と「和の伝統美」のコーナーでは、職人が手仕事で作り上げた美しい作品をご堪能いただけます。

見るだけでなく、嗅ぐ、聴く、触るなど五感をフルに活用して、大工道具の世界をお楽しみいただけます。

展示構成

展示は7つのコーナーに分かれています。大工道具の歴史や種類・しくみの紹介はもちろんのこと、大工道具それ自体の美しさを感じていただく「名工の輝き」、大工道具を使って建物をつくる過程を見ていただく「棟梁に学ぶ」「道具と手仕事」というコーナーなど、全体を見ていくことで、大工道具をめぐる世界の広がりや豊かさが感じられるようになっていきます。



歴史の旅へ

木造建築の発達とともに歩んできた日本の大工道具。先史時代から近代までの道具の歴史を、建築史を背景に、実物・復元資料、迫力ある大型模型、うごく絵巻物、豊富な映像資料とともに、面白く、わかりやすく読み解きます。



棟梁に学ぶ

鍛え抜かれた統率力で様々な職人たちを束ね、建築をつくり上げていく大工棟梁。その技と心は現代のものづくりや組織づくりにとっても学ぶところが多くあります。その魅力を実際の仕事を解説した迫力の模型や図面などを通して紹介します。



道具と手仕事

一口に鑿や鉋などといっても、様々な大きさや形のものがあります。大工は作業に応じてそれらを巧みに使い分けていました。ここでは世界にも稀にみるような多様性と独自性を誇る日本の大工道具の種類やしくみ・使い方を紹介します。



世界を巡る

柔らかい木を使う日本と硬い木を使う海外では大工道具の形と使い方が異なります。ここでは中国とヨーロッパの大工道具を展示します。道具の使い方がわかる映像や建築模型とともに日本と海外の大工道具の違いをわかりやすく解説します。



和の伝統美

日本にはまだ手仕事で究極の美を生み出す技術と感性を持った職人が残っています。茶室の実物大模型をはじめ、精緻極まる組子細工、雲母摺りかがやく唐紙襖、自然の素材でつくり上げた土壁などを通して、世界に誇る麗しき伝統美の世界をご堪能ください。



名工の輝き

優れた大工道具が放つ「用の美」の輝き。歴史に名を刻む鍛冶たちは、伝統を受け継ぐ確かな技と磨き上げた感性によって、道具に詩情豊かな銘を切り、芸術的な意匠を凝らしました。用を極めて美に至った道具文化の深遠な世界へと誘います。



木を生かす

木はあたかも人のような個性をもちます。その性質を最大限に引き出すべく、匠たちは木のクセを読み、適材適所に使います。手道具に込められた貴重な森の恵みを十分にいかす知恵の数々。美しい木の表情を楽しみながら、木を読む匠の技に迫ります。

「みる・さわる・つくる」を体験できる木工室。

木と道具に親しむプログラム

新たに館内に設ける木工室では、工作キットを使った木工体験や、気軽に大工道具に挑戦できるイベント、若手木作家によるワークショップなどを開催します。初めて大工道具に触れる子どもから、手仕事に興味のある大人まで楽しんでいただけるプログラムをご用意しています。見ているだけではなかなかわからない道具の魅力をお伝えします。

〈ワークショップ〉

- 大工による鉋削り体験(月1回)
 - 大工道具にチャレンジ(月2～3回)
- 墨壺、鉋、鋸、外国の押し切る鋸などの大工道具を体験いただけます。
- ちよこっと木工(毎週末)
- おはしやスプーン、えんぴつ立てなど、約10種類の工作キットの中から好きなものをお作りいただけます。
- その他—
- 木作家によるワークショップ
 - 刃物研ぎ教室
 - 夏休み子ども体験教室
 - 大人のための木工教室(初級、中級)など



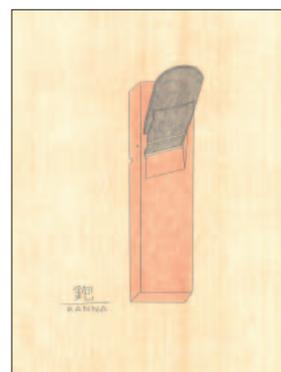
宮大工に学ぶ、道具の面白さ

当館では「宮大工がいる博物館」というユニークな特色を活かした臨場感のあるプログラムが好評です。「大工による鉋削り体験」では、法隆寺大工の流れを組む宮大工と一緒に、古代建築に使われていたヤリガンナや、鉋に挑戦していただけます。木を削った際のさわやかな香りや、仕上げられた木肌のなめらかな手ざわりなど、五感を使って木と道具への理解を深めていただけます。その他にもリクエストの多かった刃物研ぎ教室をはじめ、プロフェッショナルの技を間近に体感できるプログラムをご用意しています。

「木」と「道具」のミュージアムショップ。

こだわりのオリジナル・グッズも充実。

展示だけでは伝えきれない木の温もりや道具の面白さをより身近に感じていただけるよう、「木」と「道具」をコンセプトに、この度新しくミュージアムショップを立ち上げます。竹中大工道具館ならではのオリジナルグッズ(木組みパズル、ヒノキの鉛筆、絵はがきなど)をはじめ、きのかみ[®]、大工道具キーホルダー・ストラップ、折りたたみ式ナイフ(肥後守^{ひごのかみ})、墨壺、書籍などをご用意します。また企画展にあわせてグッズや書籍を取りそろえる予定です。



フィリップ・ワイズベッカーによる大工道具のイラスト

新館オープンにあたり、今回パリ・バルセロナを拠点に活動するフランス人アーティスト・イラストレーター、フィリップ・ワイズベッカー(Philippe Weisbecker)さんが日本の大工道具を描きおろしてくださいました。鉋、鋸、曲尺、墨壺の4点です。やわらかなタッチでとても温かみのあるイラストレーションに仕上がっています。ミュージアムショップにて絵はがきとしても販売を予定しております。ぜひ手にとってご覧ください。



きのかみ[®]



木組みパズル



旧竹中家茶室 蓑庵写し三畳

数寄屋師の創意

— 笛吹嘉一郎と旧竹中邸茶室

竹中大工道具館新館建設工事のそばでもう一つの興味深い工事が進められていた。旧竹中邸茶室の修理工事である。

同茶室は昭和33年（1958）、七畳と三畳を新築し、同41年に仏間を増築したものである。設計施工を手がけたのは、数寄屋の名工・笛吹嘉一郎（1898～1969）。戦前に大河内山荘や小林一三の茶室など著名人の仕事を、戦後は表千家出入りとして東京出張所や京都不審菴増築を手がけたことで知られる。手仕事のみならず、図面も引き、茶道や作陶にまでも通じていた非凡な棟梁で、自ら「数寄屋師」と称していた。

嘉一郎の作風は正統派で、奇をてらわず落ち着いたものである。そのため面白みがない、とも言われるが、作品をよく見ると、様々な創意工夫の跡を読み取ることができる。

茶室はしばしば名作の「写し」でつくられるが、嘉

一郎はこの写しの名人であった。この茶室も表千家不審菴の碎啄齋好み七畳、大徳寺玉林院の如心齋好み三畳（蓑庵）の写しである。

写しは簡単そうに見えて難しい。名作を寸分違わぬよう造ろうとしても、敷地や材料等の条件から、同じものはできない。本歌の良さを残しながら、どう現実に対応するか。そこに数寄屋師の深い知識と経験に支えられた知的創造が求められる。

例えば蓑庵写し三畳の場合、下地窓と連子窓の位置が入れ替わり、床柱は赤松皮付から絞丸太へ、給仕口と茶道口間の半柱は取り払われている。室内を明るく、シンプルにしたいという考えであろう。目立たないが、要点を押さえたこの工夫によって、独自性をもった茶室に生まれ変わっている。

写しという仕事が単なる本歌の模倣ではなく、創作の一形態であること、またそれをさり気なくこなす棟梁がいたことが学べる作品である。

【茶室特別公開のお知らせ】

新館オープンを記念して、10月4日（土）、5日（日）に茶室の特別公開を行います。多数の来場が予想されるため、外部からのみの見学となります。詳しくは追って当館HPにてお知らせいたします。

竹中大工道具館開館30周年記念巡回展

日中韓 棟梁の技と心

紫禁城（中国）や景福宮（韓国）などの宮殿建築。壮大なその姿は豪華絢爛です。ドラマや音楽などの影響もあり、中国・韓国の文化に対する幅広い関心の高まりもみられます。一方で、中国・韓国の建築文化を支える職人の姿やその「ものづくりの精神」を知る機会はほとんどありません。

本展で紹介するのは、日中韓の各国を代表する三人の棟梁。紫禁城、景福宮、薬師寺という東アジアを代表する建築ゆかりの最高峰の職人たちです。棟梁たちが手がけた迫力の建築模型や大工道具、設計図などが海を渡って一堂に介し、その技と心が交流する場を創出します。棟梁たちの「腕の見せどころ」の違いを際立たせながらも、日中韓に脈々と受け継がれてきた棟梁たちの精神にも迫ります。

開催概要

東京会場

会期 2014年9月11日（木）～10月24日（金）

会場 ギャラリーエークウッド（竹中工務店東京本店 1F）

開館時間 10:00～18:00（最終日は 17:00 まで）

休館日 日曜日・祝日

入場料 無料

神戸会場

会期 2014年11月1日（土）～12月28日（日）

会場 竹中大工道具館

開館時間 9:30～16:30（入場は16:00まで）

休館日 月曜日（祝日の場合は翌日）

入館料 一般500円、大・高生300円、小・中生無料

※常設展観覧料を含む

名古屋会場

会期 2015年1月17日（土）～3月1日（日）

会場 トヨタ産業技術記念館 特別展示室

開館時間 9:30～17:00（入場は16:30まで）

休館日 月曜日（祝日の場合は翌日）

入場料 無料

主催：公益財団法人竹中大工道具館

企画：公益財団法人竹中大工道具館、
水原華城博物館（韓国）

共催：〔東京会場〕公益財団法人ギャラリーエークウッド
〔名古屋会場〕トヨタ産業技術記念館

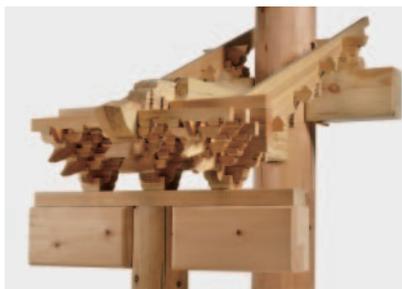
協力：故宮博物院修繕技芸部（中国）、
水原華城博物館（韓国）、鶴工舎

中国

りえいかく
李永革

故宮に伝わる宮殿設計の技

壮麗な意匠とスケールを誇る紫禁城をつくりあげる理念と設計術を中心に展示を構成。宮殿大工の技を身近に感じて頂けるよう、李氏が製作した太和殿の組物模型も展示します。棟梁の技術の伝承過程を物語るノート、間棹、皇室建築関係の計画に用いる紙模型などの独特な展示品を通して、知られざる中国宮殿の理念と技を紹介します。



紫禁城太和殿の組物模型、1/5



建物の配置や室内意匠の計画で用いる紙模型



大工道具

韓国

シンウンス
申鷹秀

韓国宮殿美を蘇らせる

申氏が手がけた実寸大4mにも及ぶ組物模型が会場に登場。韓国建築の特徴である華麗な組物彫刻の迫力を伝えます。また木造建築の設計図や内部構造がよくわかる建築模型、組物製作に用いる型板、そして韓国の建築儀式もご紹介します。日本と相通じる隣国の建築文化には数々の新鮮な発見があるはずです。



救仁寺大祖師殿の組物模型、1/1



崇礼門（南大門）構造模型、1/10



組物の製作に用いる型板

日本

小川三夫

古代工匠の心を伝える

目玉展示は本展にあわせて制作した薬師寺東院堂の構造模型（2分の1）。中国大陸からの文化を取り入れつつ、独自に発達した日本建築の構造美を伝える展示品です。中国や韓国の模型と見比べることで、日本特有な構造の理解も深まります。設計図や型板、大工道具の展示を通して、古代工匠の技に学び、線の美しさを極める小川棟梁のこだわりにも迫ります。



製図道具



鉋



墨壺

◎シアターコーナーでは三人の棟梁ゆかりの映像作品「官式古建築營造技芸—故宮に伝わる技」、「千年の命を吹き込む—韓国の大木匠—」、「棟梁が語る日本建築の美と技」(いずれも仮称、各15分) を上映します。

※各会場へのアクセスやイベント情報の詳細は「日中韓棟梁」展特設HP (http://dougukan.jp/jck_toryo) をご参照下さい。

日中韓棟梁展 記念イベント

※イベントの日時・内容は変更になることがあります。
※最新情報はホームページでご確認ください。



小川三夫 (日本)



李永革 (中国)



申鷹秀 (韓国)

東京会場

講演会「韓国の大木匠一千年の宮殿をつくる」

講師 申鷹秀 (韓国)
日時 9月19日 (金) 18:00~20:00
会場 竹中工務店東京本店2F・ABホール
定員 先着200名 (無料・申込不要)

講演会「官式古建築营造技艺—紫禁城をまもる—」

講師 李永革 (中国)
日時 10月10日 (金) 18:00~20:00
会場 竹中工務店東京本店2F・ABホール
定員 先着200名 (無料・申込不要)

実演「韓国大木匠の技」

講師 申鷹秀 (韓国)
日時 9月20日 (土) 14:00~15:30
会場 竹中工務店東京本店1F
無料・申込不要

実演「中国故宮に伝わる棟梁の技」

講師 李永革 (中国)
日時 10月11日 (土) 14:00~15:30
会場 竹中工務店東京本店1F
無料・申込不要

神戸会場

講演会「日中韓の棟梁 技を語る」

日時 11月29日 (土) 11:00~17:30
※詳細情報はp11をご覧ください。

実演「中国・韓国 受け継がれてきた棟梁の技」

講師 ①午前:申鷹秀 (韓国)、②午後:李永革 (中国)
日時 11月30日 (日)
①10:30~12:00 / ②13:30~15:00

会場 竹中大工道具館 木工室
定員 各回50名 (入館料別途・要申込)
申込方法 (受付期間:9/1~11/8)

・ウェブメール
公式サイト [http://dougukan.jp/jck_toryo] 内イベントページより
・往復ハガキ
【往信用裏面】①イベント名 (ご希望の回を明記下さい※両方も可)
②参加者氏名 (フリガナ) ③郵便番号・住所④電話番号⑤年齢
【返信用表面】宛先に申込者の郵便番号・住所・氏名を記入。
裏面は未記入のこと。
【申込先】〒651-0056 神戸市中央区熊内町7-5-1
竹中大工道具館イベント係

技と心セミナー「大木匠—朝鮮王朝の宮殿をつくった大工たち—」

日時 11月15日 (土) 13:30~15:00
※詳細情報はp12をご覧ください。

名古屋会場

講演会「日本の建築技術と意匠—中国・韓国との比較から—」(仮)

講師 藤井恵介 (東京大学教授)
日時 2015年1月25日 (日) 13:30~15:00
会場 トヨタ産業技術記念館ホールA
定員 先着150名 (無料・申込不要)

実演「棟梁が語る日本建築の技」(仮)

講師 小川三夫 (鶴工舎)
日時 2015年2月15日 (日) 13:30~15:00
会場 トヨタ産業技術記念館ホールA
定員 先着100名 (無料・申込不要)

EVENT

「技と心」講演会

日中韓の棟梁 技を語る

中国の紫禁城、韓国の景福宮、日本の薬師寺と東アジアには美しい木造建築をつくりあげてきた棟梁たちがいます。今年の講演会は「日中韓棟梁の技と心」展を記念して、藤井恵介氏を司会に、日中韓の各国を代表する三人の棟梁を迎え、それぞれの腕の見せどころや建築文化の特色について工事現場のエピソードを交えながらお話を伺います。

日時 11月29日(土) 11:00~17:30

場所 兵庫県立美術館 ミュージアムホール

司会 藤井恵介(東京大学教授)

講師 小川三夫、李永革、申鷹秀

定員 先着250名(無料・申込不要)

プログラム

11:05~11:45 (日本) 小川三夫

休憩

13:00~14:20 (中国) 李永革

14:30~15:50 (韓国) 申鷹秀

16:00~17:30 ディスカッション

藤井恵介氏プロフィール

1953年生まれ。東京大学工学部卒、現在東京大学教授。日本建築史専攻で、東アジアの比較建築史にも詳しい。東アジア文化財学への貢献から日本建築学会賞(業績)を受賞(2010年)。主な著書に「法隆寺Ⅱ」(保育社)、「図説・日本の仏教Ⅱ 密教」(共著、新潮社)など多数。

※講演会の日時・内容は変更になることがあります。最新情報はホームページでご確認ください。



韓国景福宮勤政殿

NEWS

「数寄屋大工」展が木の建築賞を受賞

2012年に開催しました巡回展「数寄屋大工—美を創造する匠—」が第9回木の建築賞(NPO木の建築フォーラム主催)にて「選考委員特別賞」を受賞しました。茶室実物大模型の展示や職人の実演などが「職人の手仕事や木の文化を伝える展覧会として十分な成果を挙げた」として評価されました。



REPORT

ハーバード大で展覧会を開催!

1月21日から3月25日にかけて、アメリカ・ハーバード大学CGIS南棟にて展覧会「The Thinking Hand: Tools and Traditions of Japanese Carpenter」を開催しました。会場には日本の大工仕事を紹介するため、道具をはじめ、木材や継手の見本、茶室の実物大模型などを展示。展示設計やケースの製作は同大学の学生が行いました。

大学や地元の木工専門学校の学生を中心に多くの来場者があり、道具に支えられた日本の伝統木造技術に感心していただけたようです。なかでも好評だったのが、現地で2度開催された大工による実演会。日本を代表する名人、耕木杜の阿保昭則棟梁に鉋の薄削りや大鉋削りを披露していただきました。阿保さんがあまりにも上手に削るので、見学者が簡単にできるだろうとチャレンジしたところ、大鉋がまったく動かず、会場が笑いの渦に包まれたのが印象的でした。



「技と心」セミナーのご案内

大工道具と建築技術の専門家ならびに当館スタッフが最新の研究成果や知見をご紹介しますセミナーのご案内です。

セミナー参加申込み方法

※応募者多数の場合は抽選とさせていただきます。
 ※受講案内ハガキ・メールは締切日以降に発送します。
 ※締切日以降は電話にてお問い合わせください。

ホームページから申込み

当館ウェブサイト (<http://dougukan.jp>) セミナーページの申込みフォームをご利用ください。
 ※申込み人数:1フォームにつき2名様まで(ご本人ならびに同伴者1名)
 ※携帯メールアドレスはご利用になれません。

往復ハガキで申込み

[返信用裏面]

- ①セミナー番号②お名前(フリガナ) 参加者全員分
- ③郵便番号・住所④電話番号

[返信用表面]

- ・宛先に申込者の郵便番号・住所・氏名を記入。
- ・裏面は未記入のこと。

[申込み先]

〒651-0056 神戸市中央区熊内町7-5-1
 竹中大工道具館「技と心」セミナー係

[申込み人数]

ハガキ1枚につき4名様まで

[66] 2014年11月15日(土)(締切2014年10月31日)

大木匠 ー朝鮮王朝の宮殿をつくった大工たちー

韓国・ソウルの中心街にある朝鮮王朝の宮殿、景福宮と昌徳宮には堂々たる外観を誇る殿閣から自然の趣きを上手に取り入れた素朴な亭にいたるまで、多様な建物が残っています。この美しい建物をつくりあげた朝鮮の匠たちは一体誰だったのでしょうか。今回のセミナーでは、きびしい社会条件の中で、彼らがいかに最善の技量を発揮し、芸術魂をこめ建物をつくったのか、その実状に迫ります。

講師:金 東旭(京畿大学校名譽教授)

開催時間:13:30~15:00(13:00開場)

会場:神戸芸術センター

定員:50名

参加費:無料

[67] 2015年1月18日(日)(締切2014年12月20日)

唐招提寺金堂大修理12年! ーバーチャル映像を交えてー

天平時代の傑作建築である「国宝 唐招提寺金堂」。井上靖の小説『天平の薨』でも知られる盛唐様式唯一の存在です。阪神大震災以後にその耐震性などが心配された結果、100年ぶりに大規模な解体修理が実施されることになりました。事前調査に2年、本工事に10年、多方面から人材や知識を大量に注ぎ込んで行われた、かつて無い規模の修理はどのように進められたのでしょうか。精密な解体調査で明らかになった知見も含めて、12年間の工事を間近で体験された石田執事にご報告いただきます。

講師:石田 太一(唐招提寺執事)

開催時間:13:30~15:00(13:00開場)

会場:竹中大工道具館1Fシアター

参加費:無料(当館見学の場合は入館料必要)

ACCESS 来館のご案内

開館時間 9:30~16:30(入場は16:00まで)

休館日 月曜日(祝日の場合は翌日)

年末年始(12月29日~1月3日)

入館料

	個人	団体
一般	500円	400円
大・高生	300円	250円
小・中生	無料	
障がい者手帳をお持ちの方及び付添者1名	無料	
65歳以上の方	200円	

※団体は20名以上 ※その他各種割引あり

※10月4日より上記の通り変更いたします

アクセス

▷山陽新幹線「新神戸駅」中央改札口より徒歩約3分

▷市営地下鉄「新神戸駅」北出口2より徒歩約3分

▷シティーループ「12 新神戸駅前(2F)」下車徒歩約3分

▷神戸市バス2系統・18系統「熊内6丁目」下車徒歩約2分

駐車場(無料)(普通車5台、障がい者用1台)

連絡先

〒651-0056 神戸市中央区熊内町7-5-1

TEL 078-242-0216(休館中は平日のみ対応) FAX 078-241-4713

URL <http://dougukan.jp>



※旧館は2014年5月18日より閉館しております

※CGは計画案です。出来上がりとは異なる場合がございます。
 ※本内容は変更になる場合があります。最新情報は、ウェブサイトにてご確認ください。

本誌の無断転写・転載・複製は禁じます。©2014 Takenaka Carpentry Tools Museum

竹中大工道具館NEWS 31号

2014年7月1日発行

編集・発行:公益財団法人竹中大工道具館

印刷:神戸新聞総合印刷

TAKENAKA
 CARPENTRY
 TOOLS
 MUSEUM



公益財団法人 竹中大工道具館